

2024東京会場

先生のための夏休み経済教室

金融経済の学習での 教科間・外部コラボをどう進めるか

明治大学文学部特任教授

藤井 剛

2024年8月20日(火)

於 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール

1. カリキュラム・マネジメントとは？

(1) カリマネの定義

→「『社会に開かれた教育課程』の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取り組みを、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと」

(文科省のHP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/__icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128_mxt_kouhou02_02.pdf より)

(2)カリキュラム・マネジメントの3つの側面(赤字は発表者)

①教科を横断し広い視点を持つ。

学校の教育目標を踏まえ、教科を横断して目標達成に必要な学習を組み合わせるなどの工夫をする。

②PDCAサイクルを回す。

教育内容の質の向上のために定期的に調査等を行いながら、教育課程を編成し、実施し、評価して改善するという一連のPDCAサイクルを確立する。

③ヒト・モノ・カネ・時間・情報などを効果的に組み合わせる。

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も含め活用し効果的に組み合わせる。

(出典:https://benesse.jp/educational_terms/24.html)

(3)カリマネの視点から「コラボ」を考える。

①教員の連携→公民科と家庭科などの教員が連携する。

②授業の連携(授業内容の連携)

→「契約」を公民科の授業で、「消費者の権利と責任、具体的なトラブルの対応」を家庭科で行う。

☆総合やLHRなども考えられる。

③授業内容の「棲み分け」

→金融分野の「マクロ的分野」を公民科が、「ミクロ的分野(パーソナルファイナンスなど)」を家庭科が行う。

④外部人材との連携→知るぽるとや金融庁などと連携する。

(3)カリマネの視点から「コラボ」の課題を考える。

①カリマネは学校に定着しているか？

→忙しい学校現場では、学校全体を俯瞰して見直す時間がとれない。中・高の教科担任制では、連携が取りにくい

など

②外部を入れることを嫌う「学校文化」

☆入れることになると「丸投げ」しやすい。

③外部機関・人材との温度差がある。

☆学校現場の「必要性」の意識<外部機関などの意識

2. 全国の動向

(1) カリマネ(特に「コラボ」や「外部講師との連携」)の研究

① 背景

A. 「18歳成年(=消費者問題)」「金融教育(ライフステージ)」などが公民科・家庭科双方の教科書で取り上げられた。

B. 消費者問題は「消費生活センター」などの方が、パーソナルファイナンスなどは「日本証券業協会」などの方が情報が多い。

② 多くの自治体で、教科間連携や外部関係機関との連携を柱とした系統的、計画的なプログラムの研究開発及び実践が行われている。

(2) 青森県の実践

①事業名：令和4～5年度学校等における消費者教育推進事業

②特徴

- A. 消費生活センター、県の生活文化課、弁護士会、司法書士会、学校現場や総合教育センター、指導課などが連携して「消費者教育」教材を作成した。
- B. 作成教材を高校で実践し、公開授業後、研究会を開き、ブラッシュアップを目指した。
- C. 弁護士や司法書士など、外部機関・人材と連携した。
- D. 最終的に教材を、県の消費生活センターHPにアップした。

<https://www.aca.or.jp/contents/post-4166/#kateika>

③目標や発達段階を示す～消費者教育の体系イメージマップ～

		幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	成人期		
						特に若者	成人一般	特に高齢者
重点領域	各期の特徴	様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に関心をもち、それを取り入れる時期	主体的な行動、社会や環境への興味を通して、消費者としての素地の形成が望まれる時期	行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し、トラブル解決方法の理解が望まれる時期	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断が望まれる時期	生活において自立を進め、消費生活のスタイルや価値観を確立し自らの行動を始める時期	精神的、経済的に自立し、消費者市民社会の構築に、様々な人々と協働し取り組む時期	周囲の支援を受けつつも人生での豊富な経験や知識を消費者市民社会構築に活かす時期
	消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解	消費をめぐる物と金銭の流れを考えよう	消費者の行動が環境や経済に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済や社会に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考える習慣を身に付けよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響に配慮して行動しよう	消費者の行動が環境、経済、社会に与える影響に配慮することの大切さを伝え合おう
	持続可能な消費の実践	身の回りのものを大切にしよう	自分の生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方などを工夫しよう	消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を実践しよう	持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを探そう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを実践しよう	持続可能な社会に役立つライフスタイルについて伝え合おう
商品等の安全	消費者の参画・協働	協力することの大切さを知ろう	身近な消費者問題に目を向けよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考えよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう	消費者問題その他の社会課題の解決や、公正な社会の形成に向けた行動の場を広げよう	地域や職場で協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくろう	支え合いながら協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくろう
	商品安全の理解と危険を回避する能力	くらしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づこう	危険を回避し、物を安全に使う手がかりを知ろう	危険を回避し、物を安全に使う手段を知り、使おう	安全で危険の少ないくらしと消費社会を目指すことの大切さを理解しよう	安全で危険の少ないくらし方をすすめる習慣を付けよう	安全で危険の少ないくらしと消費社会をつくろう	安全で危険の少ないくらしの大切さを伝え合おう
	トラブル対応能力	困ったことがあったら身近な人に伝えよう	困ったことがあったら身近な人に相談しよう	販売方法の特徴を知り、トラブル解決の法律や制度、相談機関を知ろう	トラブル解決の法律や制度、相談機関の利用方法を知ろう	トラブル解決の法律や制度、相談機関を利用する習慣を付けよう	トラブル解決の法律や制度、相談機関を利用しやすい社会をつくろう	支え合いながらトラブル解決の法律や制度、相談機関を利用しよう
生活の管理と契約	選択し、契約することへの理解と考える態度	約束やきまりを守ろう	物の選び方、買い方を考え適切に購入しよう 約束やきまりの大切さを知り、考えよう	商品を適切に選択するとともに、契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう	適切な意思決定に基づいて行動しよう 契約とそのルールの活用について理解しよう	契約の内容・ルールを理解し、よく確認して契約する習慣を付けよう	契約とそのルールを理解し、くらしに活かそう	契約トラブルに遭わない暮らしの知恵を伝え合おう
	生活を設計・管理する能力	欲しいものがあつたときは、よく考え、時には我慢することをおぼえよう	物や金銭の大切さに気づき、計画的な使い方を考えよう お小遣いを考えて使おう	消費に関する生活管理の技能を活用しよう 買い物や貯金を計画的にしよう	主体的に生活設計を立ててみよう 生涯を見通した生活経済の管理や計画を考えよう	生涯を見通した計画的なくらしを目指して、生活設計・管理を実践しよう	経済社会の変化に対応し、生涯を見通した計画的なくらしをしよう	生活環境の変化に対応し支え合いながら生活を管理しよう
情報とメディア	情報の収集・処理・発信能力	身の回りのさまざまな情報に気づこう	消費に関する情報の集め方や活用の仕方を知ろう	消費生活に関する情報の収集と発信の技能を身に付けよう	情報と情報技術の適切な利用法や、国内だけでなく国際社会との関係を考えよう	情報と情報技術を適切に利用する習慣を身に付けよう	情報と情報技術を適切に利用するくらしをしよう	支え合いながら情報と情報技術を適切に利用しよう
	情報社会のルールや情報モラルの理解	自分や家族を大切にしよう	自分や知人の個人情報を守るなど、情報モラルを知ろう	著作権や発信した情報への責任を知ろう	望ましい情報社会のあり方や、情報モラル、セキュリティについて考えよう	情報社会のルールや情報モラルを守る習慣を付けよう	トラブルが少なく、情報モラルが守られる情報社会をつくろう	支え合いながら、トラブルが少なく、情報モラルが守られる情報社会をつくろう
	消費生活情報に対する批判的思考力	身の回りの情報から「なぜ」「どうして」を考えよう	消費生活情報の目的や特徴、選択の大切さを知ろう	消費生活情報の評価、選択の方法について学び、意思決定の大切さを知ろう	消費生活情報を評価、選択の方法について学び、社会との関連を理解しよう	消費生活情報を主体的に吟味する習慣を付けよう	消費生活情報を主体的に評価して行動しよう	支え合いながら消費生活情報を上手に取り入れよう

※本イメージマップで示す内容は、学校、家庭、地域における学習内容について体系的に組み立て、理解を進めやすいように整理したものであり、学習指導要領との対応関係を示すものではありません。

以下出典
<https://www.aca.or.jp/contents/education/>

④公民科・家庭科・商業科関連表

高校生

公民科・家庭科・商業科関連表

【特徴】生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断力が望まれる

領域	目標	学習内容（項目）	備考（関連・アクティブラーニング）	カリキュラム・マネジメントの視点	
				家庭科	商業科
消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解	●経済活動の主体（流通） ●経済循環 ●環境問題・公害	ゼロ・エミッション 環境税 エコマーク 食料自給率 フードマイレージ パーチャルウォーター	基（2）ア（ア）消費と食料 基（4）ア（エ）食生活と環境 新基B（1） 新観B（1）	ビ基（4）ア 経済の基礎 イ ビジネスの役割と発展 ウ 経済活動と流通 エ ビジネスの扱い手 マーケ（3）ア 消費者の行動 イ 消費者の意思決定の過程
	持続可能な消費の実践	●環境問題 ●国際経済（フェアトレード） ●資源エネルギー問題	グリーンコンシューマー グリーンイノベーション 電力供給システム 3R 循環型社会 フェアトレード 再生可能エネルギー	基（2）オ（ア）消費生活と環境とのかかわり 基（3）ウ（ア）社会の変化と消費生活 新基C（3） 新観C（3）	ビ基（4）イ ビジネスの役割と発展
	消費者の意思・行動	●消費者問題（消費者主権、消費者基本法、クーリングオフ制度、製造物責任法、消費者契約法、金融商品販売法、預金者保護法、消費者庁） ●消費者保護と企業の責任（国民生活センター、消費生活センター、企業の社会的責任（CSR））	成年年齢引き下げ 未成年者取消権 商品表示 食品偽装 情報の非対称性 依存効果 デモンストレーション効果 業害問題	基（3）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 基（6）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 新基D 新観D	経法（5）ウ 消費者保護
	商品安全の理解と危険を回避する能力	安全で危険の少ない暮らしと消費社会を目指すことの大切さを理解しよう		基（2）イ（イ）視察の管理と計画 基（4）イ（エ）衣生活と環境 新基B（2）イ 新観B（2）ア（イ）	
生活の管理と契約	トラブル対応能力			基（2）エ（ア）消費者問題と消費者の権利 基（3）ウ（イ）消費者問題の現状と課題	経法（3）ア 契約と意思表示 イ 売買契約と賃貸契約 ウ 債券の管理と回収
	選択し、契約することへの理解と考える態度	●現代社会と法（契約自由の原則） ●法の分類	※家庭科との連携 想買商法 金融商品 電子商取引（eコマース）	基（2）ウ（ア）住居と家族の生活 基（4）ウ（イ）住生活の計画と選択 新基B（3） 新観B（3）	
	生活を設計・管理する能力	●租税 ●労働問題 ●社会保障（年金） ●ワーク・ライフ・バランス ●セーフティネット	※家庭科との連携 キャッシュレス社会 ポイント制度 リボ払い 自己破産 はたらくことの意味 ワークシェアリング 男女雇用機会均等法	基（2）カ 生活の生活の設計 基（5）ライフスタイルと生活設計 新基A（1） 新観A（1）	ビ基（5）エ 雇用
情報とメディア	情報の収集・処理・発信能力	●世論と政治参加 ●情報化の進展と生活（メディア・リテラシー）	※情報科との連携 情報公開制度	基（2）エ（ア）消費者問題と消費者の権利 基（3）ウ（ウ）消費者の権利と自立支援 新基C（2） 新観C	情報（1）ア ビジネスと情報
	情報社会のルールや情報モラルの理解	●情報化の進展と生活（情報リテラシー、情報倫理、プライバシーの権利、個人情報保護法、知的財産権）	※情報科との連携 ネットケット ユビキタス社会 情報操作 CM SNS ステルスマーケティング	基（3）イ（イ）生活情報の収集・選択と活用	情報（1）ア ビジネスと情報 ウ 情報モラル
	消費生活情報に対する批判的読解力	消費生活情報を評価、選択の方法について学び、社会との関連を理解しよう	●情報化の進展と生活（情報リテラシー、情報倫理）	基（3）イ（イ）生活情報の収集・選択と活用	情報（3）ア 表の作成 イ グラフの作成 ウ 情報の発刊・検査・抽出 エ ビジネスと統計

⑤公民科と家庭科・商業科との関連表

高校生

公民・現代社会

【特徴】生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断力が望まれる

領域	目標
消費者市民社会の構築	<u>消費がもつ影響力の理解</u> 生産・流通・消費・廃棄が環境、経済や社会に与える影響を考えよう
	<u>持続可能な消費の実践</u> 持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう
	<u>消費者の参画・協働</u> 身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう
商品等の安全	<u>商品安全の理解と危険を回避する能力</u> 安全で危険の少ない暮らしと消費社会を目指すことの大切さを理解しよう
	<u>トラブル対応能力</u> トラブル解決の法律や制度、相談機関の利用法を知ろう
生活の管理と契約	<u>選択し、契約することへの理解と考える態度</u> 適切な意思決定に基づいて行動しよう 契約とそのルールを活用について理解しよう
	<u>生活を設計・管理する能力</u> 主体的に生活設計を立ててみよう 生涯を見通した生活経済の管理や計画を考えよう
情報とメディア	<u>情報の収集・処理・発信能力</u> 情報と情報技術の適切な利用法や、国内だけでなく国際社会との関係を考えよう
	<u>情報社会のルールや情報モラルの理解</u> 望ましい情報社会のあり方や、情報モラル、セキュリティについて考えよう
	<u>消費生活情報に対する批判的思考力</u> 消費生活情報を評価、選択の方法について学び、社会との関連を理解しよう

学習内容（項目）	備考（関連・アクティブラーニング）
<ul style="list-style-type: none"> ●経済活動の主体（流通） ●経済循環 ●環境問題・公害 	廃棄：ゼロ・エミッション 環境税 エコマーク 食料自給率 フードマイレージ バーチャルウォーター
<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題 ●国際経済（フェアトレード） ●資源エネルギー問題 	循環型社会 3R フェアトレード 電力供給システム グリーンコンシューマー グリーンイノベーション 再生可能エネルギー
<ul style="list-style-type: none"> ●消費者問題（消費者主権、消費者基本法、クーリングオフ制度、製造物責任法、消費者契約法、金融商品販売法、預金者保護法、消費者庁） ●消費者保護と企業の責任（国民生活センター、消費生活センター、企業の社会的責任（CSR）） 	成年年齢引き下げ 未成年者取消権 商品表示 食品偽装 依存効果 デモンストレーション効果 情報の非対称性 業害問題
<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会と法（契約自由の原則） ●法の分類 	※家庭科との連携 悪質商法 金融商品 電子商取引（eコマース）
<ul style="list-style-type: none"> ●租税 ●労働問題 ●社会保障（年金） ●ワーク・ライフ・バランス ●セーフティネット 	※家庭科との連携 キャッシュレス社会 ポイント制度 リボ払い 自己破産 はたらくことの意味 ワークシェアリング 男女雇用機会均等法
<ul style="list-style-type: none"> ●世論と政治参加 ●情報化の進展と生活（メディア・リテラシー） 	※情報科との連携 情報公開制度
<ul style="list-style-type: none"> ●情報化の進展と生活（情報リテラシー、情報倫理、プライバシーの権利、個人情報保護法、知的財産権） 	※情報科との連携 ユビキタス社会 情報操作 CM SNS ステルスマーケティング ネットケット
<ul style="list-style-type: none"> ●情報化の進展と生活（情報リテラシー、情報倫理） 	※情報科との連携

⑥ 家庭科と公民科・商業科との関連表

消費者教育イメージマップ高校前期と家庭科との関連

※新学習指導要領（平成29年告示）参照。「基」は家庭基礎、「記」は家庭総合を示す

領域	目標	番号	題材名	「C 持続可能な消費生活・環境」との関連	学習内容「A、B」との関連 ・「Dホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」は、すべて領域で実践できる	公民科との関連～カリキュラムマッピングの観点～
消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解	1 2 3 4	健康で環境にも配慮した食生活 生活の健康を見直した食生活 持続可能な食生活 衣服と環境 (指導案1、2、3、4) (ワークシート1、2、3、4) (実践レポート1、2、4)	基C(3) 持続可能なライフスタイルと環境 記C(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ・環境負荷の少ない衣食住の生活を工夫する	基B衣食住の生活の自立と設計(1) 食生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(1) 食生活の科学と文化 基B衣食住の生活の自立と設計(2) 衣生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(2) 衣生活の科学と文化 ・環境に配慮した調理実習を行う。	●経済活動の主体(流通) ●環境問題・公害
	持続可能な消費の実践	5 6 7	環境に配慮した食生活 衣生活をつくる 持続可能な衣生活 (指導案5、6、7) (ワークシート5-1、5-2、6、7) (実践レポート6)	基C(3) 持続可能なライフスタイルと環境 記C(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ・持続可能な社会を目指すに主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫する。	基B衣食住の生活の自立と設計(1) 食生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(1) 食生活の科学と文化 基B衣食住の生活の自立と設計(2) 衣生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(2) 衣生活の科学と文化 ・グリーン・コンシューマーを意識し、環境に配慮した行動を実践する。	●環境問題 ●国際経済(フェアトレード) ●資源エネルギー問題
	消費者の意識・行動	8	健康で快適な衣生活 (指導案8) (実践レポート8)	基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・消費行動を通して生産者や事業者、行政などに消費者としての意見を表明するなど適切な意思決定に基づいて行動するとともに、環境や社会への影響を考えた行動する責任があることを理解する。	基B衣食住の生活の自立と設計(2) 衣生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(3) 衣生活の科学と文化 ・着られなくなった衣服の再利用を考え、無駄にしない方法を考える。 ・テイルーの服、それに合わせた運動などを各校で工夫し、高齢者施設等でのボランティア活動を実施する。	●消費者問題(消費者主権、消費者基本法、クーリングオフ制度、製造物責任法、消費者契約法、金融商品販売法、預金者保護法、消費者庁など)
商品等の安全	商品安全の理解と危険を回避する能力			基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・自ら選んでその消費生活に必要な情報を収集し、適切な意思決定による消費行動によって意見を表明することなどが消費者の責任であり、権利を行使することにつながることを理解する。	基B衣食住の生活の自立と設計(2) 衣生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(3) 衣生活の科学と文化 ・エンカルフアッションについて考える。 ・衣服の管理としてクリーニング店の利用方法を考える。	●現代社会と法(契約自由の原則)
	トラブル対応能力	9	ライフイベントとリスクマネジメント (指導案9) (実践レポート9)	基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・消費者保護の仕組みについては、消費者被害の防止や救済について具体的に理解できるようにする。	基B衣食住の生活の自立と設計(2) 衣生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(3) 衣生活の科学と文化 ・環境負荷低減を目指した衣生活の実現に向け、工夫できるようにする。	●租税 ●労働問題 ●社会保障(年金)
生活の管理と契約	選択し、契約することへの理解と考える態度	10	ライフイベントとリスクマネジメント (指導案10) (実践レポート10)	基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・契約の重要性については、売買契約の他に多様な契約があることを理解し、特に未成年・成年の法律上の責任の違いについて理解する。	基B衣食住の生活の自立と設計(3) 住生活と住環境 記B衣食住の生活の科学と文化(4) 住生活の科学と文化 ・経済圏を認識しながら買貨物件を選択し、契約について考える。	●世論と政治参加 ●情報化の進展と生活(メディア・リテラシー)
	生活を設計・管理する能力			基C(1) 生活における経済の計画 記C(2) 生活における経済の計画 ・各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生活の資金や働き方、社会保障制度などに関連づけながら考える。	基A人の一生と家族・家庭及び福祉(1) 生活の生活設計 記A人の一生と家族・家庭及び福祉(1) 生活の生活設計 ・生活を見通した生活設計をする。	●情報化の進展と生活(情報リテラシー、情報倫理)
情報とメディア	情報の収集・伝達・発信能力	11	青年期の住生活 (指導案11) (実践レポート11)	基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・財・サービスに関する正確な情報入手するために、生活情報として行政からの情報、企業からの広告、商品やサービスの表示、インターネット情報などを取り上げ、適切に収集・整理できるようにする。	基A人の一生と家族・家庭及び福祉(1) 生活の生活設計 記A人の一生と家族・家庭及び福祉(1) 生活の生活設計 基B衣食住の生活の自立と設計(3) 住生活と住環境 記B衣食住の生活の科学と文化(4) 住生活の科学と文化 ・情報の読み取りとして、実際に学校で公開されている求人票や学校に属する買貨物件の冊子を利用する。	●情報化の進展と生活(情報リテラシー、情報倫理)
	情報社会のルールや情報モラルの理解			基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・グローバル化、情報化などの社会変化や、それに伴う販売や流通の多様化、消費者と事業者の情報量の格差など、消費者問題発生時の社会的背景について理解する。	基B衣食住の生活の自立と設計(1) 食生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(1) 食生活の科学と文化 ・食を取り巻く環境の食文化や食の安全性について考察できるようにする。	
	消費生活情報に対する批判的思考力			基C(2) 消費行動と意思決定 記C(2) 消費行動と意思決定 ・問題の自覚、情報収集、解決策の比較検討、決定、評価などを取り上げ、消費行動における意思決定の重要性について具体的事例を通して理解する。	基B衣食住の生活の自立と設計(1) 食生活と健康 記B衣食住の生活の科学と文化(1) 食生活の科学と文化 ・健康、安全及び環境などの観点から食生活に関する情報を適切に判断し、主体的に考え工夫できるようにする。	

⑦商業科と公民科・家庭科との関連表

高校生期

商業

【特徴】生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断力が望まれる

領域	目標
消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解 生産・流通・消費・廃棄が環境、経済や社会に与える影響を考えよう
	持続可能な消費の実践 持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう
	消費者の参画・協働 身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう
商品等の安全	商品安全の理解と危険を回避する能力 安全で危険の少ない暮らしと消費社会を目指すことの大切さを理解しよう
	トラブル対応能力 トラブル解決の法律や制度、相談機関の利用法を知ろう
生活の管理と契約	選択し、契約することへの理解と考える態度 適切な意思決定に基づいて行動しよう 契約とそのルールを活用について理解しよう
	生活を設計・管理する能力 主体的に生活設計を立ててみよう 生涯を見通した生活経済の管理や計画を考えよう
	情報の収集・処理・発信能力 情報と情報技術の適切な利用法や、国内だけでなく国際社会との関係を考えよう
情報とメディア	情報と情報技術の適切な利用法や、国内だけでなく国際社会との関係を考えよう
	情報社会のルールや情報モラルの理解 望ましい情報社会のあり方や、情報モラル、セキュリティについて考えよう
	消費生活情報に対する批判的思考力 消費生活情報を評価、選択の方法について学び、社会との関連を理解しよう

学習内容 (項目)	備考 (関連・アクティブラーニング)
ビ基 (4) ア経済の基礎 イビジネスの役割と発展 イ経済活動と流通 エビジネスの担い手 マーケ (3) ア消費者の行動 イ消費者の意思決定の過程	ビジネスの担い手について
ビ基 (4) イビジネスの役割と発展	CSRの学習 (調べ) ISOの学習 (調べ)
経法 (5) ウ消費者保護 ・指導案 ・ワークシート ・授業デザインシート	マルチ商法
経法 (3) ア契約と意思表示 イ売買契約と貸借契約 ウ債権の管理と回収	契約の種類
	意思表示の種類
ビ基 (5) エ雇用 財会 I (1) クレジット売掛金 ・指導案 ・ワークシート	求人票
情処 (1) アビジネスと情報 課研 (1) 電子商取引に関する法規 ・指導案 ・ワークシート	情報通信技術とビジネスとの関連
情処 (1) アビジネスと情報 ウ情報モラル	情報モラルとセキュリティ
情処 (3) ア表の作成 イグラフの作成 ウ情報の整列・検索・抽出 エビジネスと統計	グラフ・表の作成や読み取りを通して批判的 思考力を育成

⑧「公共」学習指導案

消費者教育学習指導案（公民科・公共）				
消費者教育体系イメージマップの位置づけ （重点領域）生活の管理と契約…選択し、契約することへの理解と考える態度				
単元名 契約と消費者の権利・責任				
単元の目標 （1）多様な契約及び消費者の権利と責任に関わる現実社会の事柄や課題を基に、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解するとともに、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。 （2）幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 （3）現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。				
単元の学習計画 （1）身近な契約と法（1時間） （2）よりよい契約に向けて（3時間） （3）消費者トラブルから身を守ろう（2時間） 本時の位置づけ（4時間/6時間）				
本時の目標 よりよい契約を結ぶことに向けて主体的に考え、学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとする。 【学びに向かう力、人間性等】				
教材等 ・成人年齢引き下げに関する法教育教材（日本弁護士連合会）『賃貸借契約書を作成してみよう』 URL： https://www.nichibenren.or.jp/activity/human/education/seinen_nenrei_hikisage.html				
過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点方法等
5分	○本時の目標と流れの説明 ○講師紹介	・本時の目標と流れについて理解する。 講師の自己紹介と司法書士の仕事についての説明を聞く。	・本時の目標と流れについて説明及び板書し、学習の見通しを持たせる。 ・講師について簡潔に説明する。	
15分	○前時に作成した契約書の比較	・作成した契約書を他の班と比較しながら、自分たちの班と異なっている点や不十分だと考えられる点を考察する。	・前時までに作成した契約書を他の班の契約書と比較させる。 *契約内容について良かった点や不十分な点を挙げさせる。不十分については改善する方法を考えるよう指示する。	

⑨「家庭基礎」学習指導案

消費者教育学習指導案（家庭基礎）

番号	10		
消費者教育体系イメージマップの位置づけ (重点領域) 生活の管理と契約…選択し、契約することへの理解と考える態度			
題材名 ライフイベントとリスクマネジメント 題材の目標 ：各ライフイベントで想定できる経済生活に関する課題について、事例を通して自分の生活に合った選択するの大切さを理解し、自分の生活に活かそうとする。 (1) 契約と消費者を守る制度について、未成年と成年の違いについて事例を通して理解し、消費者の意思決定の重要性に気付くことができる・・・1時間（本時の位置づけ1時間/1時間） (2) カードの仕組みについて知り、メリットデメリットを意識した利用が、トラブル対応能力を高めることにつながることを理解している・・・1時間			
本時の目標 契約と消費者を守る制度について、未成年と成年の違いについて事例を通して理解し、消費者の意思決定の重要性に気付くことができる【知識・理解】（学習指導要領の位置づけC（1））			
他教科との関連 ・世論と政治参加・ 公民科（情報化の進展と生活）との関連・外部機関（消費生活センター）との連携			
過程	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点・評価方法
5分	1. 前時の振り返り 2. 本時のねらい、学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに日付・氏名等記入する 最近、購入したものを思い浮かべ発言する 具体例を見て購入シーンを想像する 本時のねらい、学習の流れについて説明を聞き、確認する 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット、PRJ、スクリン等学習支援機器 ワークシートを配付し、日付・氏名等を記入させる 最近購入したものがああるか、発問し発言させる 購入シーンの具体例を提示し、同じような経験がないか想起させる 本時のねらいについて説明する
身近な消費行動を振り返り、成年と未成年に対する制度の違いを理解しよう			
6分	3. 中学校までの振り返り (1) 契約成立するのはいつ？ (2) クーリング・オフ制度商品返品できるのは何日？	<ul style="list-style-type: none"> 中学校公民、技術家庭科家庭分野の学習内容を思い出す (想定できる生徒の反応) 民法、憲法、消費者基本法など法律名 詐欺、悪徳商法などを挙げる 契約が成立するタイミングをそれぞれ応える (想定できる生徒の反応) お金を払ったとき、商品を受け取ったとき 買った物を返品したりできる制度について、応える (想定できる生徒の反応) 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校公民や技術家庭科家庭分野で学んだ契約について覚えていることを挙げるよう伝える いつ契約は成立するのか。学食で食品を購入する例を示し、発問する 反応を確認し、手立てとして教科書に掲載している中学校の履修内容を見るように示し、想起できるようにする (想定していた商法や法律名をスクリーンに投影) 商品を購入し、その後返品したい時に利用できる制度について発問する 具体的に何日まで申し出るといいのかなど、内容に迫る発問をする

⑩「商業」学習指導案

消費者教育学習指導案（商業・経済活動と法）

学校

指導者

消費者教育体系イメージマップの位置づけ
 （重点領域）消費者市民社会の構築…消費者の参画・協働

題材名：企業の責任と法
 (1) 法令遵守
 (2) 紛争の予防と解決
 (3) 消費者保護（本時の位置づけ）
 (4) 雇用

本時の目標
 消費者の利益を守る法令を学び、企業がとるべき行動について考え、「企業のあるべき姿」についての考えをまとめる。
 【思考・判断・表現】

他教科との関連

過程	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点・評価方法
5分	本時の学習課題の提示	本時の学習内容を知るとともに、学習の見通しを立てる。	※ 全体をとおして、ペアワークを活用し、他社の考えを受け入れながら自身の考えをまとめ判断できるようにする。
	企業の視点で消費者のことを考えよう。		
15分	安全確保のための法的規制について	企業の立場で、法令規制や遵守の大切さを知る。 製品の安全性に対する信頼と企業経営を結び付けて考え、まとめる。	より理解しやすいように、消費者の立場で考えることとするが、深入りしすぎないようにする。また、企業の立場で考えをまとめるようにする。
15分	欠陥製品（製造物）による被害の救済について	法的規制や被害の救済について考えをまとめ、発表する。	企業価値、ブランド力低下、損害賠償、経営悪化、倒産の危険などのフレーズを用いてまとめるよう、適宜助言する。

3. おわりに

☆カリマネ(特に「コラボ」や「外部講師との連携」など)は
進展するのか？

①教員は個人商店 & 忙しい！

②外部連携

- A. どころ？
 - B. どうやって？
 - C. 教材は？
 - D. 効果は？
 - E. 謝金・交通費は？
 - F. 調整の手間は？
- などなど

☆教育は「経験則」に左右されている。

→一回、授業参観してはいかがでしょうか？